

## フランス語の現在時を表す表現について

白 水 美 優

はじめに

語学学習の際、似た意味合いで用いられる単語や表現があるとどれを使うべきか戸惑うことがある。学習者にとって判断する材料がなければ類似表現を適切に用いることができない。実際、フランス語でも一つの言葉を選ぶとき、その類似表現がたくさんある。フランス語を習得するためには、細かい意味の違いを理解し、文脈に沿って正しい使い分けをするのが重要であると考え。本論文では、日常会話でもよく用いられる時間を表す副詞 *maintenant* を中心に取り上げ、過去や未来との関係から、その語がもつ意味を考察していく。また、類似表現との比較を行うことで、フランス語学研究に貢献するものである。

次に本論文の構成については、第一章でフランス語の現在時を表す表現について六つ取り上げ、それらの基本的用法について述べていく。ここではそれぞれの表現がどのような動詞の時制と共起するのか、また、日本語ではどのように翻訳されているのかにも注意したい。第二章では、これまでの先行研究ではどのような主張や見解がなされているのかをまとめていく。主に *maintenant* と *en ce moment* について書かれた論文をピックアップし、二つの表現の違いに注目し、のちの仮説立証に役立てたい。第三章では、第一章での基本的な用法と第二章での先行研究を参考にして、*maintenant* と *en ce moment* を中心に、それぞれの細かい意味についての仮説を立てる。そして、実例でどのように使われているのか、また、ほかの表現と入れ替えるとどうなるのかについて検証していく。最後に、第四章にて本論文全体についての考察をまとめていく。以上が本論文の構成である。

## 第一章 フランス語の現在時を表す表現の種類について

ここでは、「現在」や「今」などと訳されるフランス語の現在時を表す副詞・副詞句などの表現についてまとめていく。具体的には *maintenant*、*en ce moment*、*pour le moment*、*pour l'instant*、*actuellement*、*à présent* を挙げ、それぞれの意味の違いについて述べていく。

### 1.1 *maintenant* について

- (1) *Maintenant il est midi.* 「今正午です。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (2) *Où es-tu maintenant ?* 「今どこにいるの。」(プチ・ロワイヤル和仏辞典, 2010)
- (3) *Il est maintenant arrivé à Paris.* 「彼は今パリに到着しています。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (4) *Maintenant, il était trop tard.* 「今となってはもう遅すぎた。」(ロワイヤル仏和中辞典, 2005)
- (5) *Maintenant tout ira bien.* 「これからは万事うまくいくだろう。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)

以上の例文は辞書から引用したものであるが、(1) と (2) は現在形、(3) は複合過去形、(4) は半過去形、(5) は単純未来形の動詞と共起している。まず (1) と (2) の例文は、動詞の現在形によって時制が「現在」に方向付けられており、*maintenant* のように「現在」を表す副詞がなくても通じる文である。しかし、*maintenant* と共起することによって、話をしている現在時の時間が話し手と聞き手の間で同じであることがわかる。(3) の例文は、*être* + 過去分詞の形で表された複合過去形の動詞と共起している。複合過去形は、石井 (2018) が「現在から見て過去のある時点において完了した行為や、できごとの結果である現在の状態をあらわす<sup>1)</sup>」

1) 石井洋二郎 (2018), 『フランス文法要説 (第3版)』, p.37, 朝日出版社

と述べているように、「結果状態」によって「現在」と同じ状況が表されている。ここでは「パリに到着した」結果、「今パリにいる」ということがその時点での「現在」の状態である。(4)の例文では、半過去形の動詞と共起しているが、半過去形の特殊な用法のうちの一つである「描写の半過去」が用いられている。これは、『新・リュミエール文法参考書』によると、「物語などで登場人物の行為の背景をなす状況や、人物の外観、心理などを絵画的に描写することができる用法<sup>2)</sup>」であると述べられている。この用法と *maintenant* が共起して、過去の出来事を現在の視点から見ることで、「今となっては」というように取り返しがつかなくなってしまう様子が表されているといえる。この用法が実際に物語内で用いられているのが以下の引用である。

- (6) Mais elle vivait *maintenant* avec la peur de guérir, avec la peur des longs hivers de Normandie ; et, sitôt qu'elle allait mieux, elle ouvrait la nuit, sa fenêtre, en songeant aux doux rivages de la Méditerranée. (Maupassant, 1935)

「しかし、今では、女は治るのがこわかった。治って、ノルマンディーの長い冬を過ごさねばならないのがこわかった。そこで、体が少しよくなりかけると、地中海の温暖な岸辺に思いをはせつつ、女は夜中に窓を開けはなった。」(訳書：146ページ)

ここで「今では」と訳されているが、*vivre* の半過去形と *maintenant* が共に用いられていることで、過去に視点を移し、「過去の時点での現在」のような感じで語られているのがわかる。

(5) では *maintenant* が単純未来形と共起して、「これからは」というように「今」を含む未来を表している。ここでの *maintenant* は、「これから

2) 森本英夫, 三野博司 (2016), 『新・リュミエール——フランス文法参考書——』, p.244, 駿河台出版社

は、今後は」という意味をもつ *désormais* と同じ働きをしている。

以上、辞書からは、現在形・複合過去形・半過去形・単純未来形と共起している例文を引用し、*maintenant* の基本的な用法をまとめてきたが、ほかには以下のように現在形と *maintenant* が共起することにより「過去と現在との対比」を表す場合もある。

- (7) Je me sens mieux *maintenant*. 「やっと気分がよくなってきた。」  
(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (8) Je le méprisais, mais j'en reviens *maintenant*. 「私は彼を軽視していましたが、今では違います。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)

まず (7) の例文では、*bien* の優等比較級 *mieux* が用いられており、過去よりもよくなったことを表している。ここで、*mieux* の比較対象は過去のことであるため、その文に「過去はよくなかった」ことも含意される。「今」や「現在」を表す *maintenant* が共に用いられることにより、過去と対比された現在の状況が表れていると考えられる。次の (8) の例文では、前半で半過去形によって過去が表されており、その後半で *maintenant* が用いられ、過去と現在が対比されているのがわかる。

以上から、*maintenant* は現在形と共起すると発話時点と同じ「現在」や「今」を指示するだけでなく、過去との対比も表すことができるのではないかと考える。また、単純未来形と共起して「これからは」というような意味合いをもつ場合もあり、現在時をもはや示唆していないような例が見られた。

## 1.2 *en ce moment* について

- (9) Ma santé ne va pas *en ce moment*. 「私はこのところ健康がすぐれない。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (10) Il y a une épidémie de grippe *en ce moment*. 「今インフルエンザが

はやっている。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)

- (11) Où fonctionnes-tu *en ce moment*? 「君は今どこで働いているの。」  
(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (12) La main-d'œuvre manque *en ce moment*. 「今は人手不足だ。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)

*maintenant*と同様、以上の例文は辞書から引用した。*en ce moment*は辞書によると「今、目下、現在<sup>3)</sup>」という意味を表す。(9)から(12)までの例文では、現在形の動詞とともに用いられ、発話時点と同じ「現在」の状況が述べられている。多くの場合は現在形の動詞とともに用いられるが、以下のような例では過去形の時制の動詞と共起する場合がある。

- (13) Il est sorti *en ce moment*. (六鹿, 1989) 「彼は今出かけている。<sup>4)</sup>」
- (14) Il a dit qu'il était très occupé *en ce moment* à cause de ses révisions pour ses examens. (linguee.fr)  
「彼は、今試験の復習で忙しいと言った。」(引用者翻訳)

まず(13)では、のちに先行研究として挙げる文献からの引用であるが、動詞の複合過去形と*en ce moment*が共起している。ここでの複合過去形は「結果状態」を表し、過去に「出かけた」結果、現在は「出かけた状態のままである(=出かけている)」ことを表している。結果状態で「現在」の状況が表されているため、*en ce moment*と共起可能であると述べられている。次に(14)の例文では、直接話法から間接話法に変えるときに時制の一致が行われた結果、半過去形の動詞と*en ce moment*が共起している。

3) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(2010) 参照。

4) 訳は引用者による。以降は「引用者翻訳」と記載する。

### 1.3 pour le moment / pour l'instant について

pour le moment と pour l'instant はどちらも「今のところ、さしあたり」という意味を表し、それぞれの間に特に大きな違いはないと考えられる<sup>5)</sup>ため、本論文ではこの二つの表現の違いについては取り上げない。ここでは例文を挙げ、それぞれの使い方について見る。

- (15) *Ça suffira pour le moment.* 「当面はこれで十分です。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (16) *Je ne compte pas y aller pour le moment.* 「今のところそこに行く予定はありません。」(ロワイヤル仏和中辞典, 2005)
- (17) *Rien de neuf pour l'instant.* 「今のところ何も変わったことはない。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)

以上三つの例文は辞書から引用したものであるが、現在形または単純未来形と用いられ、未来志向であることがわかる。また、複合過去形と共起している事例もあったため、以下に引用する。

- (18) *Pour l'instant, huit réunions et soixante-dix heures de négociation n'ont pas réussi à résoudre le litige. (Le Matin 18.05.82)*  
「今のところ、8回の集会和70時間の交渉も係争を解決するにいたっていない。」(小林, 1984)

日本語では「今のところ～していない。」と訳され、複合過去形の否定とともに用いられることで「未完了」な事態が表されているのがわかる。

### 1.4 actuellement について

- (19) *Le directeur est actuellement en réunion.* 「部長はただ今会議中で

---

5) 筆者が尋ねた2人のフランス人ホストファミリーのインフォーマントによる。

- す。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (20) Ma voiture est *actuellement* en réparation. 「私の車は今修理に出してある。」(ロワイヤル仏和中辞典, 2005)
- (21) Mes parents sont *actuellement* à Tokyo. 「両親は今東京にいます。」(プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010)
- (22) Il s'opère *actuellement* un grand changement au Japon. 「現在日本では大きな変化が起きている。」(ロワイヤル仏和中辞典, 2005)

以上四つの例は辞書から引用したが、発話時点と同じ「今」「現在」を指示している。共起する時制に関しては、『ラールスやさしい仏和辞典』(2016)によると、現在形の動詞のみ共起する<sup>6)</sup>と説明されている。また、*actuellement*の類義語として、*maintenant*、*aujourd'hui*、*de nos jours*などが挙げられていることから、「今日(こんにち)」、「現代」などと時間の幅を広く意味することができると考えられる。新聞などを参照すると、*actuellement*は数字と共に用いられ、現在の事実をはっきり述べるときにも用いられている例があった。

- (23) ... les Français préfèrent souscrire des obligations qui rapportent *actuellement* 14 à 15 %. (*France-soir* 11.04.80)  
「現在では14ないし15%をもたらす債券に応募する方をフランス人は選んでいるのである。」(小林, 1984)
- (24) Le nombre de personnes âgées de plus de soixante-cinq ans devrait passer, en Ile-de-France dans les vingt années à venir, de 1 125 000 à 1 200 000 (dont 121 500 de plus de 85 ans contre 91 200 *actuellement*), a indiqué le Comité économique et social d'Ile-de-France. (*Le Parisien libéré* 20.05.82)  
「65歳以上の高齢者の人口は、イル＝ド＝フランスにおいて今後

6) 『ラールスやさしい仏和辞典 NIVEAU 1』(2016), p.9, 駿河台出版社

20年間に、1,125,000人から1,200,000人に増加（そのうち85歳以上は、現在の91,200人から121,500人に増加）する見込みであると、イル＝ド＝フランス経済社会審議会は指摘している。」（小林, 1984）

この上記の二つの例文は実際にフランスの新聞で用いられていたもので、どちらも新聞に掲載時点での事実を述べるために、*actuellement* が用いられていると考えられる。

### 1.5 à présent について

- (25) *À présent*, il habite à Lyon. 「現在彼はリヨンに住んでいる。」（プチ・ロワイヤル仏和辞典, 2010）
- (26) Je ne fume plus *à présent*. 「私は今ではもうたばこを吸わない。」ロワイヤル仏和中辞典, 2005）
- (27) Il a longtemps habité en Italie, mais il est en France, *à présent*. (ラルースやさしい仏和辞典, 2016)  
「彼は長い間イタリアに住んでいたが、今はフランスにいる。」（引用者翻訳）
- (28) Vouz avez compris ? *À présent*, nous allons passer au second point de l'explication. (ラルースやさしい仏和辞典, 2016)  
「理解しましたか。それでは（今から）、二つ目の説明に移りましょう。」（引用者翻訳）

以上四つの例文は、仏和辞典と仏仏辞典を用いて引用したが、(25)の例文では、*à présent* が現在形と共起することによって、発話時点と同じ「現在」の状況が述べられている。動詞の現在形によって既に時制が現在時に位置付けられているが、*à présent* を文頭に置くことにより、話し手と聞き手の間で同じ現在時について話していることを確認できる。(26)の例文では、「ne...plus」という表現と *à présent* が共に用いられ、「今は



もう～していない」というように表すことができる。ここでは、発話時点における「現在」の状況のみ述べられているが、「たばこを吸っていた」過去が前提とされるため、必然的に過去と現在の対比が行われている。(27)の例文では、前半に過去のことが述べられたあと、後半にà présentを用いて現在のことが表されている。maintenantと同様に、過去と現在の対比が表れているといえる。(28)の例文では、現在時を表すというよりも話題の転換を表しているといえる。「さて」や「それでは」などと訳される副詞 alors と似た意味で用いられている。そのため、この例文の二文目でà présentと近接未来形 (aller+不定詞) が共起しているが、それは自然なはたらきをしているといえる。

また以下の引用のように、歴史的現在<sup>7)</sup> (présent historique) を述べるときに用いられる例もある。歴史的現在とは、あたかも今そこで起こっている出来事のように過去を描く現在形の修辭的用法である<sup>8)</sup>。

(29) *A présent, elle va mourir ; elle le sait.* (Maupassant, *Première neige*, p.15)

「今ではもう女は死にかけていて、自分でもそれを知っている。」  
(訳書：146ページ)

モーパッサンの *Première neige* から引用した文だが、過去の出来事を動詞の現在形と à présent を用いて描かれているのがわかる。

以上が à présent の用法であるが、maintenant と類似している点がある。過去と現在の対比を述べるときに用いられていたり、話題の転換で用いられていたりする点である。

7) 「歴史的現在」は、「語りの現在」と呼ばれることもある。

8) 井元秀剛 (2017), 『中級フランス語 時制の謎を解く』, p.30, 白水社

## 1.6 問題点・疑問点

1.5までは辞書などを参照し、それぞれの表現の基本的な意味や用法についてまとめてきた。これまで述べてきた、*maintenant*、*en ce moment*、*pour le moment* / *pour l'instant*、*actuellement*、*à présent*は、現在時を表すときに用いられ、それぞれ「今」と日本語で訳すことが可能である。しかし、ここで一つ疑問点として、どれも「今」と訳される表現をどのように使い分けるのが正しいのかということが挙げられる。実際に、以下の一文は先ほど挙げてきた現在時を表す表現すべてと共に起することが可能である。

- (30) Je suis très occupé {*maintenant*, *en ce moment*, *pour le moment* / *pour l'instant*, *actuellement*, *à présent*}.

「私は今とても忙しい。」

この作例は一文のみの単文で成り立っているが、前後に文脈が続くとすれば、過去の内容であったり、未来の内容であったりと対比を表す文脈がつく場合がある。例えば、過去の対比を表す文脈として「以前はすることがなく暇だった。(Avant, je n'avais pas de choses à faire et je me suis ennuyé.)」や、未来の対比を表す文脈としては「あとで電話をかけなおす。(Je vais te rappeler plus tard.)」などが考えられる。しかし、この前後に続く文脈が過去なのか未来なのかによって、現在時の表現を入れ替える必要があると考える。また、現在時の表現が表す「現在と過去」、「現在と未来」のそれぞれの関係はどのように違うのか、またどのように表されているのかということ疑問点として挙げ、次の章では先行研究を検討していきたい。

## 第二章 先行研究について

この章では、*maintenant*と*en ce moment*について書かれている文献二つと、*maintenant*の多義性について書かれている論文を取り上げ、先行

研究についてまとめていく。先行研究では、現在と過去、現在と未来について述べる時、どの表現を用いているのかに注目し、三者の主張をまとめていきたい。

## 2.1 六鹿 (1989) について

六鹿 (1989) では、*maintenant* は過去と現在との対比 (今では P だが、以前は ~P) を強く示唆していると述べている<sup>9)</sup>。

- (31) Patrick a été malade assez longtemps, mais *maintenant* il va très bien.  
(六鹿, 1989)

「パトリックはかなり長い間病気だったが、今はとても元気である。」(引用者翻訳)

- (32) Avant il était insupportable, mais *maintenant* il est plutôt sage. (六鹿, 1989)

「以前彼は手に負えなかったが、今ではどちらかといえばおとなしい。」(引用者翻訳)

上記の例文ではどちらも前半に過去について述べられたあと、後半で *maintenant* を用いて現在のことについて述べられている。(31) では、病気だった状態 (~P) と元気である状態 (P) が対比されており、(32) では、手に負えなかった状態 (~P) とおとなしい状態 (P) が対比されているのがわかる。

次に、*en ce moment* に関しては現在との対比 (目下成立している P がそのうち終わって、~P になるだろう) を強く示唆していると述べている<sup>10)</sup>。

---

9) 六鹿豊 (1989) 「語法ノート *maintenant* / *en ce moment*」『フランス語学研究』23 (1), p.98. 日本フランス語学会

10) 同論文, p.98

- (33) Il travaille (prend son bain) *en ce moment*. Tu peux attendre ? (六鹿, 1989)  
 「彼は今仕事中 (入浴中) です。少し待ってくれる？」(引用者翻訳)
- (34) Il est sorti *en ce moment*. Pourriez-vous rappeler plus tard ? (六鹿, 1989)  
 「彼は今出かけています。あとでかけなおしてもらえますか。」(引用者翻訳)

上記の例文ではどちらも現在について述べられたあと、未来について述べられている。(33) では、仕事中 (入浴中) である状態 (P) がのちに終わる (~P) と想起されるため、聞き手のほうに待ってもらえるか尋ねている場面であると考えられる。(34) では、出かけている状態 (P) がのちに終わる (帰ってくる) (~P) と想起されるため、聞き手のほうにあとでかけなおしてもらえるか尋ねている場面であると考えられる。

以上を簡潔にまとめると、六鹿 (1989) では、*maintenant* は「過去と現在の対比」を表し、*en ce moment* は「現在と未来の対比」を表すと述べられていることがわかる。

## 2.2 古石 (1990) について

古石 (1990) では、*maintenant* に関しては六鹿 (1989) と同じ考えであり、*maintenant* は過去と現在の対比を表すと述べている。過去との対比を表す言語的マーカーとして、*ne...plus* や *finir* を挙げている<sup>11)</sup>。

- (35) Garance : Il paraît que « Monsieur » avait une montre en or !  
*Maintenant*, il n'en a plus et il dit que c'est de ma faute. (*Les*

11) 古石篤子 (1990), 「*maintenant* / *en ce moment* 再考」『フランス語学研究』24 (1), p.69, 日本フランス語学会

*Enfants*, 47) (古石, 1990)

「Garanceはこのように言う。『Monsieurは金の腕時計を持っていたようである。今はもう持っていない。それは私のせいであると彼は言う。』」(引用者翻訳)

- (36) Manuella : Ecoute, Delphine, de toute façon, tu sais bien que c'est fini avec Jean-Pierre, *maintenant*. (*Le Rayon*, 20) (古石, 1990)

「Manuellaはこのように言う。『聞いて、Delphine。とにかく今はもう Jean-Pierreとの関係は終わってしまっていることをよく分かっているでしょう。』」(引用者翻訳)

この上記の例文は古石(1990)から引用したものだが、(35)では過去について述べられたあと、現在について述べられており、過去と現在の対比が明確に表れていることがわかる。(36)では、finirがあり、「今では～終わった」というように過去と現在の対比がなされていることがわかる。

しかし、次に、六鹿氏と異なる点は、古石氏が「現在と未来の対比が文脈に表れているのは en ce moment ではなく、pour le moment や pour l'instant である」と述べていることである。

- (37) Plus tard tu feras ce que tu veux ; *pour le moment*, c'est moi qui commande ! (*Niveau 2*) (古石, 1990)

「あとで好きなことをしてもいいよ。今のところ指揮をとるのは私のほうだ。」(引用者翻訳)

- (38) Cela suffira *pour le moment*, nous verrons plus tard. (Petit Robert) (古石, 1990)

「今のところ十分そうです。あとで検討しましょう。」(引用者翻訳)

(37) の例文では、前半のほうで *plus tard* と単純未来形の動詞によって未来のことが表されており、その後半のほうで、*pour le moment* と現在形の動詞で現在のことが表されている。次の (38) の例文では、前半で *pour le moment* と単純未来形の動詞が共起しており、その後半で *plus tard* と単純未来形の動詞で未来のことが表されている。どちらも *pour le moment* の例文であるが、*plus tard* との連鎖はとても自然であるように思われる。そして、これらの例文は *en ce moment* と共起すると不自然であると指摘し、*en ce moment* については、「発話時点において *p* が成立している」印象を強く受けると述べられている。

- (39) (歌の前の歌手の紹介) *Il s'appelle Michel Berger. C'est un des chanteurs les plus populaire en ce moment en France. Voici l'un de ses succès (...)* (*Reffet*, n°19) (古石, 1990)

「彼の名前は Michel Berger である。現在フランスで最も人気のある歌手のうちの一人だ。こちらは彼の成功の一つで…」(引用者翻訳)

たしかに、ここでの *en ce moment* は、「現在 *p* が成立している」と表されているのがわかる。前述した通り、古石 (1990) は「現在と未来の対比を表すのは *pour le moment* または *pour l'instant* である」と主張しているが、ここで *en ce moment* の代わりに *pour le moment* を用いた文が (39') である。

- (39') ? *Il s'appelle Michel Berger. C'est un des chanteurs les plus populaire pour le moment en France.*

主張通りに *pour le moment* のニュアンスを読み取ると、未来にその出来事や行為が終了することを想定してしまう。つまり、ここでは Michel Berger が未来に人気なくなってしまう、というように歌手の紹介では

失礼にあたってしまうと考えられる。そのため、この点から *en ce moment* よりも *pour le moment* のほうが未来志向にあることがわかる。

### 2.3 阿部 (1996) について

阿部 (1996) では、『*Maintenant* の多義性について』というテーマでまとめられているため、*en ce moment* に関しては主題とされていないことに注意したい。

*maintenant* を「発話時点用法」、「現在時用法」、「談話用法」と三つの用法に分類している。

まず発話時点用法は、「*maintenant* が不定詞のあとにおかれ、時間的には点的にとらえられた発話時点のみに関わる<sup>12)</sup>。」と説明している。

(40) *Peux-tu venir maintenant ?* (阿部, 1996)

「今、来られますか？」(引用者翻訳)

(41) *-non, non ! Je ne peux pas, je souffre trop... j'aime mieux mourir, mourir maintenant...* (Zola, É. -*Le Docteur Pascal* (2) -1893 - p.266, DT) (阿部1996)

「いやいや、それはできません。私はあまりにも苦しんでいます。私は今、死んだほうがいい…、死にたい…。」(引用者翻訳)

上記の (40) と (41) では不定詞が用いられている文である。(40) と (41) で *maintenant* が用いられない場合は、不定詞によって表されている行為がいつ行われるのかが正確ではないことがわかる。そして、不定詞にかかると「今すぐ」のようなニュアンスもでると考えられる。これは以下の例文からも確認できる。

12) 阿部宏 (1996) 「*Maintenant* の多義性について」『言語と文化』(東北大学言語文化部) 第6号, p.321

- (42) Je vais terminer ce travail *maintenant*. 「今すぐ (に) この仕事を終わらせます。」(田原, 2010)

上記の例文は田原 (2010) から引用したもののだが、田原 (2010) では *maintenant* が *tout de suite* と共起すると非文ではないが不自然であると述べられており<sup>13)</sup>、それは *maintenant* 自身に「今すぐ」というニュアンスが含まれるため、*tout de suite* との共起は意味の重複が起こると説明している。

そして阿部 (1996) では、不定詞だけでなく、命令法でも時間上の位置が不安定なため、*maintenant* によって発話時点に位置付けることが可能であると述べている。

- (43) Partez *maintenant*, et je ne vous reverrai plus. (阿部, 1996)  
「今すぐ出発してください。そして私はもうあなたとは会うことはありません。」(引用者翻訳)
- (44) Décide-toi *maintenant*, après ce sera trop tard. (阿部, 1996)  
「今すぐ決心してください。後では遅すぎるだろう。」(引用者翻訳)

二つ目の現在時用法は「*maintenant* が文頭に立ち、文脈は過去との対比を示すものである<sup>14)</sup>」と説明している。

- (45) Il était pauvre. *Maintenant* il est millionnaire. (阿部, 1996)  
「彼は貧しかった。今では大金持ちだ。」(引用者翻訳)

13) 田原いずみ (2010), 「“maintenant” と “今” の対照研究 — 直示的用法と対比のニュアンスを中心に —」『明學佛文論叢』(43), 明治学院大学文学会, p.99-100

14) 阿部宏 (1996) 「Maintenant の多義性について」『言語と文化』(東北大学言語文化部) 第6号, p.324



- (46) Autrefois il était malade, *Maintenant* il est en pleine forme. (阿部, 1996)

「昔、彼は病弱だった。今ではとても体調が良い。」(引用者翻訳)

この現在時用法は前述した六鹿(1989)と古石(1990)で、*maintenant* が現在と過去との対比を表す、と述べられている用法と同じものである。(45)と(46)では、はじめに半過去形で過去の状態が述べられており、そのあとの文で *maintenant* を用いて現在について述べることで、過去と現在が対比されているのがはっきりわかる。

三つ目の談話用法は、「非時間的用法で、ほとんどの場合文頭に置かれ、副詞というよりも接続詞的になる。(中略)これらにおいて *maintenant* は前の話題を終了させ、新たな話題を提示する機能であり、日本語では『今度は』などにあたる。<sup>15)</sup>」と説明している。実際、辞書を確認してみると、「(文頭で話題の転換を示す)ところで、さて；しかし、だが」と訳されることが書かれている<sup>16)</sup>。

- (47) Et *maintenant*, fais-moi rapetisser, dit le géant au Chinois, toujours en chinois. (P. Gripari in 泉(1993:84)(阿部, 1996)

「そして今度は私を小さくしてください、と巨人は中国人に言った。相変わらず中国語で。」(引用者翻訳)

- (48) Voilà ce que j'en pense ; *maintenant* vous ferez ce que vous voudrez. (DSF)(阿部1996)

「これは私が思うことです。でもあなたがやりたいことをできません。」(引用者翻訳)

- (49) S'il venait, je serais heureux. *Maintenant*, hélas, il ne viendra pas. (Neff 1980 : 158)(阿部, 1996)

15) 同論文, p.332

16) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』第4版, (2010), 旺文社

「もし彼が来ていたら、私は幸せだっただろう。しかし、残念ながら、彼は来ないだろう。」(引用者翻訳)

しかしこの談話的用法は、現在時を表さず発話時点における現在を指示する役割はないため、*maintenant* 特有の用法であるといえる。第一章でも述べたが、*à présent* にもこの用法があると考えられる。

## 2.4 先行研究のまとめ

以上三つの文献・論文の共通点としては、*maintenant* は過去と現在の対比を表すと述べられていることである。阿部(1996)は、*en ce moment* についてはふれていなかったが、*maintenant* を三つの用法に分類することで、多義的な *maintenant* の機能について、統一的解釈を示していた。

しかし、相違点として古石(1990)では、六鹿(1989)の「*en ce moment* は現在と未来の対比を強く示唆している」という主張を、*pour le moment* や *pour l'instant* を代わりに挙げて批判している。次の章からは *maintenant*、*en ce moment*、*pour le moment* / *pour l'instant* を中心に挙げ、それぞれの細かい違いを見るために実例を挙げ、仮説を立てて比較検証していく。

## 第三章 比較検証

先行研究内では、*maintenant*、*en ce moment*、*pour le moment* だけで、ほかの現在時の表現については言及されていなかった。前述したとおり、この章では *maintenant*、*en ce moment*、*pour le moment* の違いを明らかにするために、実例を見て仮説を立てて入れ替えのテストを行っていく。

### 3.1 仮説

第二章では先行研究についてまとめてきたが、筆者の意見は以下のとおりである。

*maintenant* が用いられることによって過去と現在の対比が表れる。また、過去はそうではなかったというニュアンスも含意される。

en ce moment が用いられる文では、過去・未来のどちらとも対比のニュアンスが出ないが、文脈からはその対比が出る場合がある。単に、発話時点での現在時を指示する。en ce moment が表す時間の幅については、「今」を含む一定の時間の流れを含意している。

pour le moment を用いて表された時間の幅は一時的であり、未来になって変わる可能性がある。

以上を踏まえ、実例でどのような意味を表しているのか、また表現の入れ替えを行うとどのような意味が成り立つのかを検証する。

## 3.2 maintenant に関する検証

### 3.2.1 maintenant が表す過去との対比

まず、maintenant は過去と現在の対比を表すことは筆者も同様の意見である。それを確認できるのが、以下の『星の王子さま』からの引用である。

- (50) J'étais triste mais je leur disais : « C'est la fatigue... » *Maintenant*, je me suis un peu consolé. (Saint-Exupéry, *Le Petit Prince*, p.91)

「僕は悲しいままだったが、みんなにはこう言った。『いや、疲れているだけさ……』 今では少し、悲しみはやわらいだ。」(訳書：141ページ)

複合過去形の結果状態を表す用法により、過去形を使って現在の状況が述べられている。具体的には、「悲しかった」という過去と「悲しみがやわらいだ」という現在の対比を読み取ることができる。また、複合過去形と maintenant を用いて「完了」の意味合いも表されていると考えられる。

- (51) Mais j'en ai fait mon ami, et il est *maintenant* unique au monde. (Saint-Exupéry, *Le Petit Prince*, p.72)

「でも、それからぼくたちは友だちになって、今ではこの世で一匹だけの、かけがえのないキツネなんだ。」(訳書：107ページ)

この文でも、前半で過去について述べられ、後半で *maintenant* と現在形を用いて述べられている。前後の連鎖によって過去と現在の対比が表れている。ここでの *maintenant* の役割として、「今では」と訳されているように、過去と比べて「今」は～になった、というニュアンスも読み取ることができる。

次に、フランスの新聞である《*Le Monde*》から、実際に新聞上で使われているフランス語の例を引用する。

- (52) *Cela fait maintenant trois ans que les Bleus règnent sur le BMX mondial.* (*Le Monde*, 23.07.19)

*cela fait...* や、*ça fait...* と時間(年や週など)を用いた表現と、*maintenant* が共起する例は SNS 上でも確認でき、日常でもよく使われる言い回しである。これは、過去から今にかけてどれくらいの時間が経った、という意味を持ち、過去と現在の対比が表れていると考える。また、日本語で「現在で3年になる」と訳すことができ、現在の時点を点で表すことができるといえる。

### 3.2.2 現在時を表す表現がない文との比較

*maintenant* は過去と現在との対比を表すとこれまで述べてきたが、ここで現在時の表現がない文とある文との比較を行い、どのように異なるのかについて述べる。

- (1) *Maintenant il est midi.* 「今、正午です。」  
 (1') *Il est midi.* 「正午です。」

これは第一章の *maintenant* の説明で挙げた例文と同じものである。どちらも発話時点での時間を相手に伝えている状況であるが、*maintenant* がある場合とない場合では、過去に確認した時間と変わったことが含意されると考えられる。つまり、*maintenant* が用いられた場合は、「12時になった。」のような完了の意味合いが出ると考えられる。反対に、*maintenant* が用いられていない (1') の例文では、*être* の現在形のみで現在が表されているため、単純に話し手がその発話時点に時計を見て時間を相手に伝えたという状況のみであると考えられる。

次に、時間ではなく、場所について話している例文を挙げる。

(2) *Où es-tu maintenant ?* 「今どこにいるの。」

(2') *Où es-tu ?* 「どこにいるの。」

こちらも第一章の *maintenant* の説明で挙げた例文と同じものである。*maintenant* が用いられているほうは、過去に違う場所にいたのを知っているが現在は知らない、または、過去は一緒に行動していたが現在の居場所を知らないためこの疑問文を相手に問いかけたというようなシチュエーションがうかがえる。しかし、*maintenant* を用いていない文は過去にどこにいたのかは関係なく、今現在の場所について尋ねるときに用いられる。実際に、SNS 内で「*Où es-tu ?*」の文を入れて検索してみると、旅行中のような写真を載せている投稿に対して「*Où es-tu ?*」とコメントしているものを見つけた。このように、過去は無関係で、単に今現在の場所を知りたいときに用いるのが自然かと思われる。

もう一つ、住んでいる場所について尋ねる際の疑問文の例文を挙げる。

(53) *Où habites-tu maintenant ?* 「今どこに住んでいますか。」

(54) *Où habites-tu ?* 「どこに住んでいますか。」

この二つの文の大きな違いは、(53) は初対面の人や知り合って間もな

い相手に対して発すると不自然な点である。その理由として、*maintenant* を用いることにより、過去に違う場所に住んでいたということが含意されるからである。この例文が用いられる状況として、例えば久しぶりに会った知人に対して、過去にどこに住んでいたかは知っているが、現在どこに住んでいるのか知らない場合に尋ねるときに用いるのが適切である。そのため、初対面の人に *maintenant* を用いて現在住んでいる場所を聞くには、その相手の過去を知っていることになるため不自然である。初対面の人には、*maintenant* がない (54) の文を用いることで、現在住んでいる場所を初めて聞くことから、過去の状況を含意せず尋ねることができる。

以上の例からもわかるように、*maintenant* が用いられる文には、過去について知っていることを前提とする役割や、過去と対比させる役割があると考えられる。実際にフランス人に尋ねたところ、過去との対比のニュアンスを出すときには *maintenant* が用いられると述べていた。以上の検証で、*maintenant* がある文とない文の比較を行った結果、*maintenant* が用いられている文には過去についても含意されることがわかった。

### 3.3 *en ce moment* に関する検証

- (55) J'apprends beaucoup de choses en ce moment. J'ai appris à accepter des choses que je n'acceptais pas avant. (*Le Monde*, 26.09.2014)

この事例では、*en ce moment* の文のあとに、過去の文が述べられているが、*en ce moment* を用いて表されているのは、『『今』学んでいる』という状況だけであると考ええる。ここで代わりに *maintenant* が用いられるとすると、「過去は学んでいなかったが、今は学んでいる」のような、対比が主眼になった意味になるはずである。ここでは、後の文で「以前受け入れなかったことを受け入れるようになった」という文があるが、「多くのことを学んでいる」というのは、対比させる必要性はなく、単に現在の状況が述べられているだけというのがわかる。

次に、作例であるが、「私は今病気です」と言いたいときに *maintenant* と *en ce moment* のどちらを用いるのかフランス人に聞いたところ、*en ce moment* のほうがより自然であると述べていた。

(56) Je suis malade *en ce moment*.

*malade* の状態は一時的ではなく、ある程度続くことが想定される。*en ce moment* のほうが自然であるという理由は、*en ce moment* が「今」を含む一定の期間の時間の流れを含意するからだと考えられる。つまり、*maintenant* は「点」で表され、その出来事の初めから終わりまでを含意しない。反対に、*en ce moment* は「線」で捉えられる「今」「現在」であり、その時間の幅で *malade* の状態を表すことができるからであると考えられる。これは、第二章の古石 (1990) の文献内で *populaire* と *en ce moment* が用いられた例でも、*en ce moment* が「今」を含む一定の期間を含意していることから、*populaire* の状態が続いていることを示唆する表現になっていると読み取ることができる。

### 3.4 pour le moment / pour l'instant に関する検証

(57) Cette année, je n'ai rien à perdre. Je suis très loin dans le classement. Il va falloir que je donne tout et que je reste dans mon surf. Si j'arrive à passer quelques séries, ça va beaucoup m'aider à retrouver de la confiance. *Pour le moment*, je me concentre sur ces premières séries et je verrai après [il vient de se qualifier pour le 2e tour]. (*Le Monde*, 26.09.2014)

この引用では、*pour le moment* を用いた文のあとに、未来形の文が続いているため、現在→未来への流れが示されているのがわかる。古石 (1990) が主張していたのと同様に、この実例でも *pour le moment* が現在と未来の対比を表していることがわかる。また、それ以外に、*pour le*

moment が表している状況は「一時的」であることも読み取ることができる。「今のところ、この第一セットに集中し、あとで考えるだろう（彼は第二ラウンドへの出場権を得たばかりである）。」という訳になることから、*pour le moment* を用いて表されている状態は、未来にはそうでなくなる（ここでは、集中することを終え次のことをする）ことが読み取られる。未来になってその行為が終わることを示唆しており、現在と未来が対比されているといえる。

- (58) Les Etats-Unis enregistrent *actuellement* en moyenne 400 000 nouveaux cas de Covid-19 chaque jour, un record depuis le début de la pandémie. Les hospitalisations sont aussi en hausse, mais pas au même rythme, et restent *pour le moment* en dessous du pic enregistré il y a un an. (*Le Monde*, 03.01.2022)

「アメリカ合衆国は現在、毎日平均して約40万件の新型コロナウイルスの新規感染者数を記録しており、それは世界的大流行が始まって以来の記録である。入院者数も増えているが、同じペースではなく、今のところ、一年前に記録されたピークを下回っている。」(引用者翻訳)

この引用では、*actuellement* と *pour le moment* の二つの現在時の表現が用いられている。ここでの *actuellement* は第一章で述べたとおり、その時点での現在の事実を述べるために用いられていると考えられる。そして、後半に出てくる *pour le moment* に関しては、現在の一時的状況を述べるために用いられているのではないかと考える。つまり、アメリカでのコロナウイルス感染者数は増え続けており、入院者数も今後は昨年を上回るほど増える可能性も少しはあるため、ここで *pour le moment* を用いることによって、未来には増えるかもしれない、というニュアンスを出していると考えられる。ここで、*pour le moment* の代わりに *maintenant* や *en ce moment* を用いた場合は、下記のように意味が変化する。



(58<sup>o</sup>) ... restent *maintenant* en dessous du pic enregistré il y a un an.

過去についての言及があるため、*maintenant* を用いた場合も自然となるが、*maintenant* を用いると未来に状況が変わることまでは含意しない。また、*maintenant* を用いることでその状況を点として捉えてしまう。前の文脈を読んで、「今後どうなるか分からない」というようなニュアンスを出すにはここでは *maintenant* は少し不自然になってしまうと考えられる。

次に、先ほどの例文を *en ce moment* に変えたものを以下に記載する。

(58<sup>o</sup>) ... restent *en ce moment* en dessous du pic enregistré il y a un an.

こちらはその時点での現在の状況が述べられているため、*en ce moment* でも自然になるはずだが、単に現在の状況が述べられているだけで、過去や未来の対比は含意されないと考えられる。*rester* は「とどまる」や「～のままである」という意味をもつことから、*en ce moment* と共起することで、「その状態がある程度続く」ことを示唆するのではないだろうか。そのため、*pour le moment* のような「一時的現在」のようなニュアンスは出づらく、*pour le moment* を用いることによってその状態が一時的かつ、未来になって変わる可能性が表れると考えられる。

### 3.5 それぞれの違いについてのまとめ・考察

(59) と (60) の二つの例文は、阿部 (1996) と田原 (2010) でそれぞれ不自然であると述べていたものである。それらを *maintenant*、*en ce moment*、*pour le moment* に入れ替えるとどうなるのか以下に述べていく。

(59) ? *Maintenant* il fait beau mais il risque de pleuvoir ce soir. (阿部, 1996)

(60) ? Il travaille *maintenant*. Tu peux attendre ? (田原, 2010)

まず、(59) の例文が不自然である理由については阿部 (1996) は、「過去との対比により抽出された現在が、他方で未来と対比されるのは必ずしも不可能でないにせよ、一方で過去と対比しておきながらその直後ですぐ対比するのは不自然であろう。<sup>17)</sup>」と述べている。次に (60) が不自然である理由については、「“仕事をする” という行為が近い未来のある時点において終了することを想定して発せられる発話だとすると、日本語の“今”の使用は非常に自然だが、フランス語の *maintenant* の使用は違和感を生む<sup>18)</sup>」と述べられている。

以下は入れ替えをしてみたフランス語の文である。

(59<sup>2</sup>) Il fait beau *en ce moment* mais il risque de pleuvoir ce soir.

「今晴れているが、今晚雨が降るかもしれない。」(引用者翻訳)

(59<sup>2</sup>) Il fait beau *pour le moment* mais il risque de pleuvoir ce soir.

「今のところ晴れているが、今晚雨が降るかもしれない。」(引用者翻訳)

(60<sup>2</sup>) Il travaille *en ce moment*. Tu peux attendre ?

「彼は今作事中です。待ってくれる？」(引用者翻訳)

(60<sup>2</sup>) Il travaille *pour le moment*. Tu peux attendre ?

「彼は今のところ作事中です。待ってくれる？」(引用者翻訳)

まず、(59<sup>2</sup>) では *en ce moment* を用いて表された事態は、「今」を含み一定期間「晴れている」ことを表されていると考えられる。その後に来るに「雨が降るかもしれない」という文が続いている。しかし、この二つの文のうちどちらがより自然かをフランス人に尋ねたところ、*pour le*

17) 阿部宏 (1996) 「Maintenant の多義性について」『言語と文化』(東北大学言語文化部), 第6号, p.324

18) 田原いずみ (2010), 「“maintenant” と “今” の対照研究——直示的用法と対比のニュアンスを中心に——」『明學佛文論叢』(43), 明治学院大学文学会, p.115

momentのほうであると述べていた。やはり、その理由として現在と未来の対比が出やすいからであると考えられる。

次に、(60')の文は実際に六鹿(1989)の文献内でも用いられているものである。maintenanが用いられたときには「過去には仕事をしていなかった」ということまで含意されることが想定されるが、en ce momentやpour le momentが用いられ「現在」を表す文は、過去の状況は含意されることはないと考えられる。六鹿(1989)でも「過去についてはen ce momentはむしろ無関心である。(中略)はっきりと過去との対比が主眼になる場合、maintenantの代わりに置くと不自然である<sup>19)</sup>。」と述べられている。実際にフランス人インフォーマントは過去との対比が主眼になる文はmaintenantを用いると話していたため、過去との対比を表したい場合にはmaintenantを用いるほうが適切だと考えられる。そしてこの(60')と(60'')の例文では、過去についての状況は無関係であり、未来にその仕事が終わることを示したいときには、pour le momentを用いるのが一番自然であると考えられる。

これまで、実例を挙げ入れ替えテストを行ってきた結果、同じ現在時を指す表現ではあるが、maintenantは現在と過去の対比を表す「過去志向」、pour le momentは現在と未来の対比を表す「未来志向」、en ce momentはそれ自身には対比を表す役割はないことがわかった。そしてそれぞれが表す時間の幅として、pour le momentは一時的、maintenantは「点」的な現在、en ce momentは「今」を含む一定期間の流れを表していると考えられる。また、第一章で挙げた疑問に対しては、前後に続く文脈が過去なのか未来なのかによって現在時の表現を使い分けることにより、文の流れがより自然になり過去や未来について現在との対比が表れると考えられる。

---

19) 六鹿豊(1989)「語法ノート maintenant / en ce moment」『フランス語学研究』p.98. 日本フランス語学会

#### 第四章 おわりに

本論文では、maintenant、en ce moment、pour le moment、pour l'instant、actuellement、à présent、以上のフランス語の現在時を表す副詞や副詞句などの表現を取り上げ、それぞれの違いについて検討した。その表現の中から日常会話でもよく用いられる maintenant、en ce moment、pour le momentを中心に、先行研究の調査、実例の参照、実例の表現の入れ替えを行うことで、それぞれの現在時の表現の意味の違いを明らかにすることを試みた。その結果、現在時の表現の中には過去や未来の状況を考え含意するものもあることがわかった。過去の状況を含意するのは maintenant であり、maintenant がない文では過去の状況まで含意されないことは明らかだった。そのため、maintenant を用いた文では、過去と現在の対比が表れ、過去の前知識が必要になる場合もあることがわかった。続いて、未来の状況を含意するのは pour le moment である。pour le moment を用いて表された現在時の状況は一時的で、未来になって変わってしまう可能性があると考えられる。en ce moment は、過去と現在の対比、または現在と未来との対比のニュアンスを自身が含意することはないと考えられる。実例を見ても現在の状況が表されているだけで、未来については言及しないというような印象が得られた。そして、maintenant よりも en ce moment を用いたほうが自然になる文については、en ce moment を用いて表されている事柄は「今」を含む一定の期間や時間の流れを含意しており、「線」で捉えられるような長さを示しているからだと考えられる。

以上の結果から、maintenant は過去志向、pour le moment は未来志向であり、前後に続く文脈が過去なのか未来なのかによって、現在時の表現を使い分けるほうがよいと考えられる。

本論文では扱わなかった pour le moment と pour l'instant の細かい違いについては、より詳しい調査が必要である。フランス人インフォーマントにとっても、区別が難しいと述べていたため、フランス人でも気付かないほどの小さい相違点があるのかもしれないと感じた。また、音声デ

ータも参考にすることで、フランス人が普段どのように現在時の表現を使い分けているのかを読み取ることができるのではないかと考える。本論文の不足点として、maintenant、en ce moment、pour le moment 以外の表現についての先行研究を参考にできなかったことと、日本語でも「今」「現在」「今日（こんにち）」など、類似表現が複数あるため、日本語学の研究も参考にすべきだと感じたことである。

#### 引用文献・参考文献

- ・森本英夫、三野博司（2016）、『新・リュミエール——フランス文法参考書——』、駿河台出版社
- ・井元秀剛（2017）、『中級フランス語 時制の謎を解く』、白水社
- ・石井洋二郎（2018）、『フランス文法要説（第3版）』、朝日出版社
- ・六鹿豊（1989）「語法ノート maintenant / en ce moment」『フランス語学研究』23（1）、p.98-100、日本フランス語学会
- ・古石篤子（1990）、「maintenant / en ce moment 再考」『フランス語学研究』24（1）、p.69-72、日本フランス語学会
- ・阿部宏（1996）「Maintenant の多義性について」『言語と文化』（東北大学言語文化部）第6号、319-340
- ・田原いずみ（2010）、「“maintenant” と “今” の対照研究——直示的用法と対比のニュアンスを中心に——」『明學佛文論叢』（43）、91-124、明治学院大学文学会

#### 用例出典

- ・『ロワイヤル仏和中辞典』第2版、（2005）、旺文社
- ・『プチ・ロワイヤル仏和中辞典』第4版、（2010）、旺文社
- ・『プチ・ロワイヤル和仏辞典』第3版、（2010）、旺文社
- ・『ラールス やさしい仏辞典 Niveau 1』（2016）、駿河台出版社
- ・Antoine de Saint-Exupéry（1946）：*Le Petit Prince*, FOLIO JUNIOR（2004）、Gallimard
- ・サン＝テグジュペリ、河野万里子訳（2017）、『星の王子さま』、新潮社
- ・Guy de Maupassant（1935）：*Première neige*, Hakusuisha
- ・高山鉄男（編訳）（2002）、『モーパッサン短篇選』、岩波書店
- ・小林茂（1984）、『新聞のフランス語』、白水社
- ・“Linguee Dictionnaire anglais-français”

- <https://www.linguee.fr/francais-anglais> (2021年12月8日閲覧)
- ・“Championnats du monde de BMX : la France a le choix du roi”,  
[https://www.lemonde.fr/sport/article/2019/07/23/championnats-du-monde-de-bmx-la-france-a-le-choix-du-roi\\_5492379\\_3242.html](https://www.lemonde.fr/sport/article/2019/07/23/championnats-du-monde-de-bmx-la-france-a-le-choix-du-roi_5492379_3242.html), *Le Monde*, le 23 juillet 2019 (2022年1月9日閲覧)
  - ・“Jérémy Florès : “J’ai peut-être perdu ma passion pour le surf”,  
[https://www.lemonde.fr/libresglisses/article/2014/09/26/jeremy-flores-j-ai-peut-etre-perdu-ma-passion-pour-le-surf\\_5974248\\_5470887.html](https://www.lemonde.fr/libresglisses/article/2014/09/26/jeremy-flores-j-ai-peut-etre-perdu-ma-passion-pour-le-surf_5974248_5470887.html), *Le Monde*, le 26 septembre 2014 (2022年1月9日閲覧)
  - ・“Covid-19 : les Etats-Unis autorisent le rappel du vaccin de Pfizer pour les 12-15 ans”  
[https://www.lemonde.fr/planete/article/2022/01/03/covid-19-les-etats-unis-autorisent-le-rappel-du-vaccin-de-pfizer-pour-les-12-15-ans\\_6108058\\_3244.html](https://www.lemonde.fr/planete/article/2022/01/03/covid-19-les-etats-unis-autorisent-le-rappel-du-vaccin-de-pfizer-pour-les-12-15-ans_6108058_3244.html), *Le Monde*, le 03 janvier 2022 (2022年1月9日閲覧)